

令和4年度荒尾市協働の地域づくり活動方針

令和4年9月27日

令和4年度第1回荒尾市協働の地域づくり推進委員会

目次

- (1) 地域づくりに関する国の動向について (P.3)
- (2) これまでの荒尾市協働の地域づくりについて (P.4)
- (3) 地区担当職員制度導入について (P.5)
- (4) 地区別計画推進について (P.6～P7)
- (5) 地域活動のデジタル化について (P.8～P.9)
- (6) 今後の地区協議会の方向性について (P.10)

(1) 地域づくりに関する国の動向（政策方針に関すること）

デジタル田園都市国家構想基本方針

○「地域共生社会」の実現

⇒地域における一層多様な社会参加の場の創出や、つながりが生まれやすくなるよう、教育、地方創生、まちづくり、地域自治、環境など他分野との連携を推進。

○「公民館・図書館などの社会教育施設を拠点とした地域コミュニティの維持・強化

⇒公民館・図書館などの社会教育施設の活用を促すことにより、地域の取組にリアルな交流とデジタルの相乗効果が生まれ、課題解決に向けたコミュニティ活動が活性化することで、誰一人として取り残さない、デジタル社会の実現を図る。

○「生涯活躍のまち」の推進

⇒誰もが居場所と役割を持つコミュニティをつくり、活気あふれる温もりのある地域をつくるために、「生涯活躍のまち」づくりに関するガイドラインやアプローチの説明書等の普及促進を通じて「生涯活躍のまち」づくりを推進する。

(2) これまでの荒尾市の協働の地域づくりについて



R1年～

- ・地区担当職員制度導入
(地域課題の解決に向けた支援)
- ・地区別計画の策定(各地区の課題や
目指す姿の設定)

H24年～

- ・協働の地域づくり推進条例の制定
- ・地区協議会の設立 (社会教育連絡協議会
(地域の各団体の代表者で構成する連絡調整組織)
の位置付けの見直し、元気づくりとの統合、協働の地域
づくり交付金の制度化など)

H15年～

- ・協働のまちづくり推進指針の策定(住民自治の領域拡大による自治
システムの構築、質の高い分権型社会・行財政改革の実現)
- ・元気づくり委員会の設立 (住民参加による協働の実践・住民自治拡大)

協働の地域づくりを推進するため、地域における組織体制を整備するとともに、協働の地域づくり交付金を通じて、地域の主体的な活動を支援している。

(3) 地区担当職員制度導入について

1. 概要

地域コミュニティの維持、活性化を図るためには、地域と市がお互いの強みを生かして、補完し合いながら取組みを進めることが重要である。そのためにも、荒尾市行政経営計画の「地域マネジメント」に基づき令和元年度7月から地区担当職員制度を導入。(1地区3名配置)

2. 役割 (業務内容)

【運営支援】

- ・役員会等の会議に出席し、地域課題の取りまとめなどを行う。
- ・地域の課題を踏まえ、地域の特性を生かした事業などの企画、立案を行う。

【調整支援】

- ・市の担当部署との連絡調整を行い、市での検討結果や対応方針等について地域に報告する。

【活動支援】

- ・地域で開催されるイベントなどについて必要に応じて活動の支援を行う。

3. 活動実績

- ・令和元年8月～ 地区別計画の策定に関するワークショップ (計3回実施)
- ・令和2年6月～ 各公民館にマスク、消毒液、非接触型体温計等の配付
- ・令和3年10月～ 各地区協議会会長とのヒアリング

※随時、各地区の定例会やイベント等に出席。

(4) 地区別計画推進について

＜概要＞

令和2年度3月に市内各地区協議会を中心に「荒尾市地区別計画」が策定された。令和3年度から、当計画推進に係る具体的な事業考案を進めていく予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、地域の会議が通常通り実施できなかつたことから、当事業については停滞しているところである。

地区別計画に係る事業について、各地区、会議等も再開していることから、来年度以降の事業実施に向けて地域・地区担当職員等との協議を進めていきたいと考えている。

下記の1～4のテーマにつきましては、現時点での想定であり、今後、各地区協議会会長等の協議において、取り組み内容は適宜変更になると見込まれる。

＜施策・事業に関すること＞

1. 地域防災力の強化

- ・7月豪雨や激甚化する災害を背景に、被災地域等を中心に関心が高まっている。
- ・地区別防災計画等の策定や自主防災組織連絡協議会の設立など進められているが、災害時に支援が必要な市民をいかに隣住所・地域で見守り、支えるかが課題。



(4) 地区別計画推進について

2. 地域福祉の充実

- ・コロナ禍で高齢者等の外出機会低下、社会的孤立を懸念。
- ・社会福祉協議会においても、各地区に対し地域福祉部会の設立を打診、サロン活動や生活支援ボランティア等の普及・拡大を目指す。
- ・高齢化率が高い井手川地区では、認知症高齢者見守り訓練等を実施。



≪地域運営に関すること≫

3. 若い世代の地域活動参加促進・地域活動への若い世代の意見反映

- ・地区協議会の役員は高齢化率が高く、若い世代の会議、行事への参加者が少ない。
⇒若い世代・子ども部会等の設立・運営支援。既存事業等への若い世代への参加PRや、若い世代向けの事業企画 など

4. 地区協議会役員の手確保・後継者育成

- ・地区協議会役員の手不足が課題であり、地域行事運営等のノウハウ喪失等の懸念。
- ・自治会の加入率も以前より減少傾向であり、市民の地区協議会に対する理解が低下。



(5) 地域活動のデジタル化について

地域活動のデジタル化を進めることで、紙媒体の回覧板や掲示板の代替・補完をはじめとする地区協議会等の内部における情報共有の効率化・迅速化、事務負担の軽減、若年層の参加促進等における新たなサービス・価値を生むことも期待できる。

地域活動のデジタル化に対する市区町村の支援例

○電子回覧板

⇒市の町会連合会、アプリ開発事業者との三者協定の下で、地区の町会連合会単位での電子回覧板アプリの導入。(金沢市)

○オンライン会議

⇒自治会、情報通信機器事業者との三者連携協定の下で、感染防止対策のための新たな情報伝達手段として自治会にオンライン会議を導入。(島田市)

○地域SNS

⇒民間会社が作成し、無料で使用可能な地域SNSアプリを活用し、ホームページ機能を通じた広報や新規参加者の参加促進、限定した地域内での連絡ツールとしての活用(佐世保市)



【荒尾市の取組み状況】

- ・産業支援館や中央公民館等で高齢者向けスマホ教室を実施。
- ・荒尾市DX推進計画を策定し、全世代型デジタル社会の構築。(令和4年3月策定)

【各地区協議会の状況】

- ・地区協議会でオンライン会議や、電子回覧板等の実施はしていない。
- ・荒尾市公式LINEを使った地域情報発信。(一部地区)

(5) 地域活動のデジタル化について

荒尾市公式LINEを活用した地区協議会の発信例（緑ヶ丘・八幡地区）

令和4(2022)年
緑ヶ丘地区協議会ニュース 5月

緑ヶ丘地区全体の方針 ~人と人がつながり、見守り、きれいで安心のまち~

◎緑ヶ丘に「荒尾市立図書館」が移転オープン



4月1日(金)12:00 オープニングセレモニー
 市長、機紀伊酒屋店社長、頼イズミ社長、荒尾第三中学校生徒代表、緑ヶ丘小学校児童代表等によるテープカット
 初日から多くの人々が来館
 献書数 10万5千冊
 電子書籍 7000点

◎「荒尾市制施行80周年」記念式典

4月3日(日)、荒尾市総合文化センター大ホールで開催されました。オープニングの荒尾太鼓の後、国歌斉唱、市長式辞、災害祝辞に続き、「市政功労者表彰」があり、「地方自治部門」、「教育文化体育部門」、「社会福祉部門」等の319名、21団体表彰されました。緑ヶ丘地区の皆さまも表彰されています。これまでのご尽力に感謝と敬意を表するとともに、お祝い申し上げます。
 休憩をはさんで、「荒尾市民楽団864」の演奏、岱志高校、有明高校の生徒がそれぞれ制作した「荒尾市PR動画」の上映、そして、「小学生からの未来へ続くメッセージ」の発表が、有明小学校4年生と緑ヶ丘小学校4年生(黒香葉さん)の2人からありました(市内の小学生170名の応募の中から選ばれた作文とのことです)。
 市制施行80周年キャッチフレーズは、「80年の思いを胸にずっと守る私たちの荒尾」です。本当に私たちの荒尾をずっと守っていかれたらと思っています。

緑ヶ丘よもやま話 《緑ヶ丘に「紀伊國屋書店」がオープン》

昭和2年(1927年)創業の書評業界大手の「紀伊國屋書店」が、熊本県3番目の店舗として、荒尾シタメーモール2Fにオープンしています。
 1月20日にプレオープンし、4月1日の市立図書館の移転オープンにあわせグランドオープン。さすがに、大型書店だけあって、文芸書、実用書、ビジネス書、専門書、児童書、学習参考書、コミック等幅広いジャンルの書籍が揃えられています。
 また、同店は、指定管理者として市立図書館の運営にも当たるとのことです。大型書店の店舗は、地域住民にとっても嬉しい限りです。
 ちなみに、「紀伊國屋」の名前も、創業者の田辺茂一さんの先祖が密航を営む時に出身地紀伊和歌山にちなんで名づけたのが始まりで、紀伊みかんを江戸に運んで富を築いた江戸元禄期の豪商「紀伊國屋左衛門」とは特に関係はないとのこと。



【発行責任者：緑ヶ丘地区協議会 石松 浩(TEL.080-6872-3453)】

やはり地区協議会便り



第37号

2022/6/1 発行
 協議会事務局

旭田新会長始動!



こんにちは。4月24日2年ぶりに開催された定期総会において、八幡地区協議会会長の選出を受け、ご承認をいただきました旭田です。66才野郎区在任です。宜しくお願いします。



前川前会長！大変お疲れ様でした。そして ありがとうございます！

前川前会長には、2期4年間本協議会をリードしていただきました。任期期間中には「コロナ感染拡大」という予想もしなかった事態が発生しました。しかしそのような現状の中においても、冷静な判断を投げ、協議会運営の舵取りを担っていただきました。

おかげさまで、運営主軸である執行部メンバーの士気が下がることなく、各部会で計画した行事は、3割程度の実施に終わったものの、常に八幡地区の「笑顔集う場所づくり」に向けて活動をすることが出来ました。

消え去らないコロナ感染拡大の中にも集える場所づくり!

さて、八幡地区内には12の行政区があります。その集合体が八幡地区協議会です。本協議会では、住みやすい町、明るい生活環境を創ること、地区民相互の交流を図り、健康で楽しい暮らしを創ることを目標としています。

それを推進するために本協議会内に5つの部会を設け、前会長と委員連携の元、各々年間行事計画を立てております。各部会のイベントは、区民の皆さまも気軽に参加出来る内容です。是非一度参加してみませんか?楽しい発見があると思います。

コロナ禍の中、感染はなかなか収まりそうにありませんが、今年度も感染対策をしながら各部会のイベントを実施していききたいと思います。区民の皆さまと一緒に知恵を出しながら、明るい八幡地区を創っていききたいと思います。皆さまのご理解とご協力のほどを宜しくお願い致します。

八幡地区協議会会長 旭田 國浩

令和4年度八幡地区協議会役員紹介 (敬称略)

区 長 会		執 行 部		部 会 長	
狐 塚 区	高 濱 敏 一	会 長	旭田國浩	元気づくり文化交流部会	中川幸久
野 原 区	西田耕男	副会長	赤村達一博	体力健康づくり部会	三本浩一
上赤田区	藤吉統治	事務局長	宮尾文法	環境美化部会	坂井哲也
下赤田区	神島真一	事務局次長	根藤正幸	防災防犯安全部会	村上浩昭
川 登 区	堀澤 博	書 記	山本秋代	地域福祉部会	中野悦子
井川田区	平島廣幸	会 計	内田理由美		
川後田区	高塚成生			八幡地区社会教育主事	吉富真美子

現在2地区（緑ヶ丘・八幡）で毎月や年に数回、地区の広報誌を作成。地域住民に地区協議会の活動報告や、市政情報等の発信を行っている。

今後は、1 2地区で荒尾市公式LINEを使って、地域住民に地区協議会の活動報告や、事業開催の案内等の発信を行う予定。

(6) 今後の地区協議会についての方向性について

地域コミュニティの活動	現状の活動分野	(自治体が) 今後活動を期待する分野
地域の催事・イベント	69.0%	24.1%
環境（清掃、美化、ゴミ・資源、環境保全等）	53.4%	33.8%
行政からの連絡事項の伝達	46.1%	20.7%
住民相互の連絡	44.2%	26.9%
防災・危機管理（要援護者の避難支援、安否確認等）	23.1%	58.6%
地域福祉	14.2%	49.6%
空き家・空き地対策等	1.5%	20.0%

（出典）公益財団法人日本都市センター「コミュニティの人材確保と育成 ―協働を通じた持続可能な地域社会―」の中のアンケート調査から作成

地域コミュニティの「現状の活動分野」と自治体が「今後活動を期待する分野」を調査したところ、「現状」と「今後」の間に大きな乖離が生じている。

令和4年度は、本課、地区担当職員、各地区協議会会長等で、「地域防災力の強化」、「地域福祉の充実」をテーマについて協議し、来年度以降の事業実施に向けた準備を進めていきたいと考えている。

また、地域活動のデジタル化についても、荒尾市DX推進計画を基に、オンライン会議の推進（地区協議会の定例会等）や、電子回覧板の導入など検討していく必要がある。